

# 会 議 録

## 1 会議名

平成28年度 第1回上越市学校適正配置審議委員会

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 委嘱状交付（公開）
- (2) 委員長、副委員長の選出（公開）
- (3) 学校適正配置の経過と現状について（公開）
- (4) 意見交換（公開）

## 3 開催日時

平成28年11月30日（水）午前10時から午前11時25分まで

## 4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟3階 大会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：池田正美、大滝幸治、折笠正勝、加藤淳一、斉藤 崇、杉本正彦、  
中戸正子、濱口正巳、平野 礼、藤井清比古、保倉政博、安田詮秀
- ・ 事務局：教育委員会 中野教育長、高橋教育部長、教育総務課 市川課長、  
親跡参事、鈴木副課長、加藤係長、宮澤主事

## 8 発言の内容

### (1) 開会

(市川教育総務課長)

ただ今から、「平成28年度第1回上越市学校適正配置審議委員会」を開会させていただきます。委員の皆様には、ご多用の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

私は、教育委員会教育総務課長の市川と申します。委員長選出までの間、司会進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

学校の適正配置につきましては、平成22年に学校適正配置審議委員会のご意見を踏まえ策定した「上越市立小中学校適正配置基準」に基づき、喫緊の課題としておりました

複式学級が存在する小規模校の解消、望ましいとする学級規模を大きく上回る過大規模校の解消に向け、取組を進めてまいりました。

この学校適正配置審議委員会につきましては、学校教育の一層の充実及び振興を目指し、全市的な視点から学校の適正配置基準等について検討するため、設置しているものでありますが、前回の開催が2年前となります。この間、適正配置を進めておりました浦川原区の下保倉小学校、末広小学校及び中保倉小学校の統合、春日新田小学校の一部と小猿屋小学校の統合に見通しが立ったこと、また、新たに統合に向けた地域の動きが出てきたことなど、委員会での具体的議論の環境が整いましたことから、本日は、学校適正配置のこれまでの経過と現状についてご説明するとともに、今後の適正配置のあり方、取組の方向について意見交換をさせていただきたいと考え、開催させていただきました。

なお、本日の会議時間は1時間半程度とし、11時半頃の終了を予定しております。会議の進行にご協力くださいますようお願いいたします。

## (2) 委嘱状交付

(市川教育総務課長)

はじめに、委嘱状の交付であります。委嘱状につきましては、大変恐縮ですが、皆様のお手元に置かせていただきました。

任期は、平成29年3月31日までとなっております。任期わずかとなっておりますが、よろしくお願いいたします。

## (3) 挨拶

(市川教育総務課長)

それでは、教育長の中野よりご挨拶申し上げます。

(中野教育長)

開会に当たり、教育委員会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、日頃から教育行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

この審議会の中で、まず学校の適正配置をどう進めていくか皆様からご意見をいただき、教育委員会でどう進めていくかを検討していきたいと思っております。

お手元にもお配りしてありますが、平成22年2月24日に適正配置審議委員会の委員の皆様方から、およそ1年半にわたり審議いただいた内容を、「上越市学校適正配置の

基本的な考え方」としてまとめ、これに基づいて市の適正配置の基準を決めさせていただき、今ほど教育総務課長が話をさせていただいた取組を進めてきた状況であります。

お配りした資料「上越市学校適正配置の基本的な考え方について」の9ページをご覧ください。様々な議論をさせていただいて、(3) 緊急に取り組むべき課題と方策としてまとめてございます。目を通していただくと桑取小学校と黒川小学校、それぞれの統合について記載があります。また春日新田小学校は(仮称)有田小学校として学区の一部を分離し、一つの学校を作る作業を進めております。ここに名前が挙がっている学校につきましては着実に進めさせていただいてきたところであります。

また、浦川原には小学校が三つありますが、これを一つの学校に統合し、平成29年4月に開校いたします。三つの小学校の閉校式はすでに終わっております。地域の皆様と十分な話し合いを行い、最後は地域の皆様から、学校がなくなるけれども私たち大人が地域をしっかりと盛り上げていかなければならないんだ、と実行委員の方からお話をいただきました。丁寧に新しい学校の準備を進めている状況であります。

緊急に取り組むべき課題として書いてあるものの他にも、今進めている状況を皆様にお伝えしなくてはいけないと思っております。そして今後どのように課題に対応していくかを検討していきたいと考えております。

学校に、子どもたちにとって一番良い環境を作ることが大切であります。学校は地域のコミュニティの活力でありますので、小さいからとすぐ統合するのではなく、どうするのが一番良いのかを考え、地域の皆様に納得をしていただき、地域に行き、関係を作りながら進めていくことをこれからも続けていかなければならないと思っております。

現在は急激な少子化が進んでおります。学校の存続に関わる状況も出てきております。そういった状況を皆様方からご理解いただき、いろいろなご意見をいただきながら教育行政の推進を図っていきたくと思っております。皆様方には心からご協力をお願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

#### (4) 委員自己紹介

(市川教育総務課長)

続きまして、委員の皆様から自己紹介をいただきたいと思っております。お配りしております名簿の順にお願いいたします。

#### 【委員自己紹介】

続きまして、事務局職員を紹介いたします。

なお、本日は教育次長の野澤も出席の予定でしたが、他の公務のため欠席をさせていただきます。

#### 【事務局職員自己紹介】

#### (5) 委員長・副委員長の選出

(市川教育総務課長)

次に、委員長、副委員長の選出に入ります。はじめに、委員長の選出であります、「上越市学校適正配置審議委員会設置要綱」第5条第2項の規定により、委員の互選により定めることとなっております。いかがいたしましょうか。

#### 【事務局一任の声あり】

今ほど、事務局一任の声がありました。事務局といたしましては、加藤淳一委員に委員長をお願いしたいと考えております。いかがでしょうか。

#### 【拍手あり】

ご賛同いただきましたので、委員長は加藤淳一委員から就任いただきます。よろしくお願いたします。恐れ入りますが、加藤委員長は、委員長席にご移動をお願いいたします。

#### 【加藤委員長 委員長席へ移動】

それでは、加藤委員長から一言ご挨拶をいただきます。

(加藤委員長)

ただいま皆様からご賛同いただき委員長に就任いたしました。よろしくお願いたします。16年前に教育長に就任させていただき、私の時もこの委員会がございました。その時は難しい問題が多々あり、紆余曲折ありましたが、中野教育長から話がありましたように非常に円滑な学校の適正配置をしていただいたのではないかと考えています。もちろん住民の皆様の素晴らしいご協力、ご支援があったものと推察しております。委員の皆様方からご支援をいただきながら務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

(市川教育総務課長)

次に、副委員長の選出であります。「上越市学校適正配置審議委員会設置要綱」第5条第2項の規定により、副委員長は委員長が指名することとなっておりますので、加藤委員長から指名をお願いいたします。

(加藤委員長)

それでは、私の方から指名をさせていただきます。副委員長は、中戸正子委員にお願いしたいと思います。

(市川教育総務課長)

今ほど加藤委員長から副委員長の指名がありました。副委員長は中戸正子委員から就任いただきます。恐れ入りますが、中戸副委員長は、副委員長席にご移動をお願いいたします。

**【中戸副委員長、副委員長席へ移動】**

それでは、中戸副委員長から一言ご挨拶をいただきます。

(中戸副委員長)

中戸でございます。皆様と一緒に委員長を支えていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(6) 報告

(市川教育総務課長)

次の報告に入ります前に、本日の資料の確認をさせていただきます。

**【資料確認】**

それでは、報告に入らせていただきます。「上越市学校適正配置審議委員会設置要綱」第6条第1項の規定により、委員会の会議は委員長が議長を務めることとなっておりますので、ここからの進行は、加藤委員長にお願いしたいと思います。加藤委員長お願いいたします。

(加藤委員長)

しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、「学校適正配置の経過と現状について」事務局から説明をお願いします。

(市川教育総務課長)

それでは私の方から資料の説明をさせていただきます。

資料の「上越市の学校適正配置の経過と現状」をご覧ください。

まず「1 上越市立小中学校適正配置基準」についてであります。教育委員会として、学校の統合等の適否を考える上で基準としておりますのは、平成22年3月に策定しました「上越市立小中学校適正配置基準」であります。この学校適正配置基準は、教育委員会からの諮問に対し、1年間の審議を経て上越市学校適正配置審議委員会から平成22

年2月に提出された「意見書」を踏まえ、策定したものであります。なお、この学校適正配置基準に示す学校規模は、資料にありますとおり「学校としての適正規模」「学級としての適正規模」「適正な通学時間の限度」により定められており、「学校としての適正規模」は、小学校は1学年2～4学級で全校では12～24学級、中学校は1学年2～4学級で全校では6～12学級としており、「学級としての適正規模」は、小・中学校とも1学級20～30人としております。また、「適正な通学時間の限度」は、小・中学校ともおおむね30分以内としております。

次に「2 学校適正配置基準に基づく適正配置の実績」についてであります。平成23年以降の適正配置の実績と、今後予定しております統合についてお示ししております。

(1)は、「緊急に取り組むべき課題のある学校」に位置付けておりました学校の統合、分離・新設であります。平成25年度には、黒川小学校を下黒川小学校に統合したほか、桑取小学校と谷浜小学校を統合し谷浜小学校を新設いたしました。また、皆様もご承知のとおり、平成30年度には春日新田小学校の一部を分離し、小猿屋小学校と統合して(仮称)有田小学校を新設する予定となっております。

(2)は、「その他課題のある学校への対応」であります。保護者など地元住民から統合の声があり、複式学級の常態化が見込まれておりました浦川原区の末広小学校、下保倉小学校、中保倉小学校の3小学校を統合し、浦川原小学校を新設するものであります。浦川原小学校は来年4月の開校となっております。

次に「3 現在の動き」についてであります。新たに学校の統合に向け動きがありました板倉区、諏訪区、三和区の地域協議会の取組状況をお示ししております。

まず、板倉区であります。地域協議会において「小学校の在り方に関する意見交換会」を開催し、平成27年12月に4校区の意見を集約しております。各校区の意見は、1校又は段階的に統合するべきとの意見が出された針、宮嶋、山部小学校区に対し、豊原小学校区から豊原小学校の存続を望む意見が出されたことから、10月の板倉区地域協議会において「住民合意の無い中、意見の一本化は時期尚早」として議論を凍結する方針を決定しております。

次に諏訪区であります。平成26年12月から平成27年1月までを調査期間として、「諏訪の未来を考えるアンケート」を実施されております。そのアンケートの中に「人口減少によりあなたが心配に思うこと」との設問があり、集計の結果、「小学校の統廃合」を挙げた方が最も多かったというものであります。

次に三和区であります。平成28年3月に地域協議会が「三和区小学校のあるべき

姿」を、地域協議会の自主的審議事項として審議することを決定しております。平成27年度には教育総務課、学校教育課が地域協議会の学習会に出席し、市の学校適正配置基準について説明をしております。地域協議会では、今年度も自主的審議事項として審議を継続していくことを決定しております。

次に「4 国の動き」についてであります。学校の適正配置に関する国の近々の動きとしまして、平成27年1月に「公立小・中学校の適正規模、適正配置等に関する手引き」を策定しております。この手引きが示す適正規模であります。資料にありますとおり、学校規模については、小学校は「少なくとも1学年1学級以上であることが必要で、1学年2学級以上であることが望ましい」としており、中学校は、「1学年2学級以上が必要で、少なくとも9学級以上確保することが望ましい」としております。通学距離につきましては説明を省略させていただきます。以上です。

(加藤委員長)

ただいまの説明について何かご質問等ございましたらお願いいたします。

(斉藤委員)

資料の「上越市の学校適正配置の経過と現状」の1ページ3番、現在の動きの三和区についてですが、平成27年度に教育総務課、学校教育課が地域協議会の学習会に出席とありますが、地域に要請されて出席したのでしょうか。

(親跡参事)

三和区の方から要請があり、市の考え方と進んでいました浦川原小学校の統合について説明してまいりました。

(斉藤委員)

地域協議会が主体となって統廃合について協議しているということによろしいでしょうか。

(親跡参事)

はい。結構です。

(加藤委員長)

地域協議会が自主的に統廃合について、どうしたらよいのか考え方を協議しているということですね。他にございませんでしょうか。

(濱口委員)

適正配置基準という言葉についてですが、国としてのスタンスは分りますが、市としては適正についてはどのように考えているのかお答えいただきたい。国の方は学級数や

学校規模を示していますが、上越市としては適正についてこういった考え方を持っているのでしょうか。

(鈴木副課長)

今のご質問についてですが、資料「上越市の学校適正配置の経過と現状」の1ページの4に国の動きというのがございます。国の手引きの考え方と市の適正配置基準の考え方はどちらも大きく違っているものではないと思っております。今までのところ平成22年に策定しました上越市の適正配置基準を望ましい姿としており、そこから離れている状況にある学校に対する取組を進めているところでございます。

(加藤委員長)

国は法律で示しているのではなく、手引きで示しているのですね。学校規模については上越市も国と同じ考え方であると思いますが、通学距離について上越市の方が少々踏み込んだ内容になっているのではないかと思います。国は通学距離で、市は通学方法にこだわらない通学時間としています。この通学方法にはバス通学も含まれているのでしょうか。

(鈴木副課長)

通学方法は、徒歩、バス、自転車、全部含めて考える中で、通学時間がおおむね30分以内というのが当市の当時策定した望ましいあるべき姿としています。

(濱口委員)

適正という言葉についての考え方については分りましたが、例えば今、フリースクールの問題がある中で、小規模だからこそ特色ある教育活動ができるという考え方もできるかと思いますし、そういったことについての話し合いがあって、市としてこういった方向性になっているのでしょうか。

(中野教育長)

皆様にお配りした資料の「上越市学校適正配置の基本的な考え方について」の5ページをご覧ください。こちらに学校としての適正規模が書いてあります。この中に「小規模校においても、子どもの学力が高く、特色ある充実した教育活動を展開し、地域住民が信頼を寄せている学校が見られる。このことから、ここに示した適正規模より小さい学校であったとしても、すぐに統廃合の対象にする必要はないと考える。」といった意見をいただいております。こういったことを大事にして取組を進めていこうと考えております。

同じことは学級規模に対してもあり、上越市は20人から30人が望ましいと考えていますが、国はまだ40人学級を正式としています。全国的に少人数による学級編成が

進んでいることから、上越市は国や県に対して学級編成基準の見直しについて働きかけていく必要があると考えております。通学時間につきましては、国はおおむね1時間以内としています。1年生の子どもがバスに乗って1時間もかけて通学するのは疑問に思います。やはり私は少なくとも通学時間は30分以内が適正ではないかと考えています。こういったことを話し合っただけの意見書であります。数字に表れている以外のことも十分に議論をした上での基準であると認識しておりますので、ご理解いただきたいと思ひます。

(折笠委員)

13区については各区に事情があると思ひしバス通学も概ね理解しました。

私からも質問なのですが、上越市の通学区域の線引きというのはどうなっているのでしょうか。家の近くの学校ではなく、遠い学校に通っている場合もあるかと思ひます。最近では町の状況も昔と変わってきましたし、通学区域についても学校の適正配置の中で考えていった方がよいと思ひます。

(加藤委員長)

例えば、城東中学校と城北中学校を比べた時、すぐ近くに城東中学校があるのに城北中学校まで行っているということが昔からあります。

(鈴木副課長)

通学区域のご質問ということですが、資料「上越市の学校適正配置の経過と現状」の3ページ、上越市立小学校及び中学校の通学区域について、をご覧ください。現在の規定では町内会単位で通学区域が決まっております。町の状況が変わってきており、新興住宅地ができる地域があれば、一方では子どもが減っている地域もあるといった中で、学校を適正規模にする手法として、通学区域を見直すことも方法の一つに入ってくるのではないかと思ひます。資料の3ページに記載がありますが、直江津南小学校については石橋と新光町3丁目は共通学区となっており、通常でいえば春日中学校に該当しますが、選択として直江津中学校に入ることもできるといった対応をしている地域もございます。

(加藤委員長)

例えば南本町小学校のすぐ近くの町内では、南本町小学校に直接行く方が近いのに、高田西小学校の方まで歩いて通っています。学校設立当時の事情があるのだと思ひますが、そういうものも見直さなくてよいのかということだと思ひます。中学校区は分りましたが、小学校区はどうなっているのでしょうか。

(鈴木副課長)

小学校区につきましても子どもの数ですとか町の状況が変わってきた時に、今後、適正な学校規模を図る上で必要な場合には、通学区の見直しを図ることも考えられるかと思えます。

(高橋部長)

ただいまの説明に捕捉させていただきますと、委員長がおっしゃった南本町小学校と高田西小学校の学区の問題については私自身も該当しておりまして、同じ場所に三代続けて住んでおりますが父親と私と子どもたちと通った小学校が全部違っております。これは南本町小学校がマンモス校になり高田西小学校ができた時に、学区をどうするかということで、旧町村の区割り等、歴史的な経過の中で現在の区域が設定されたものであります。今現在の児童数を見ますとバランスを欠いている部分も出てきておりますので学区の適正配置も含めて、今後検討が必要になってくるのではないかと考えておりますし、この委員会にお諮りする時期も来るかと思えます。

(加藤委員長)

学区というのは難しく、私たちが昔からの学区と今の児童数の現状を考え、変更したほうがよいと思っても地域の方は実はそう思っていないことがあります。そこが非常に難しいが現実だということです。しかし将来のことや子どものことを考えて共通学区にするとか、地域に再度時代の変化に合わせて学区の見直しをしてもらうことができるのかを、この委員会の中で検討したほうがよいのかということも1つの問題ではないかと思えます。

この学区の問題について杉本委員はどうお考えですか。

(杉本委員)

例えば直江津南小学校と直江津小学校の二つの学校は非常に近辺に位置しています。もう少し直江津南小学校を移動した場合に新光町の学区をどうするのか検討したことがあります。住民の方に話をしに行こうかといった意見もありましたが、それぞれの地域の住民の方にしっかりとした考えがない中で物事を進めるのは難しいことでありました。そういった観点からいいますと、今まで検討されている中身が妥当な案であるという感じはしています。ただ、今ほど意見もありましたが今後も検討していく課題でないかと考えております。

(加藤委員長)

学区については、地域の行事やお金も絡む問題でこりこりした経験もあります。

他に意見等ございませんか。

(濱口委員)

資料「上越市学校適正配置の基本的な考え方について」の8ページに小中一貫校や多機能学校の記述がありますが、学校の統廃合だけでなく、小中一貫校などに関してはどういった考えを持っているかお聞きしたい。

(中野教育長)

望ましい教育環境の実現に向けた学校の在り方として資料「上越市学校適正配置の基本的な考え方について」の7ページに記載がありますが、よりよい教育環境の整備のための一つの具体策として小中一貫校の取組があります。

小中一貫校は、小学校と中学校での9年間の学びを一貫して進め、好ましい教育環境を実現するといった考え方であります。国の動きとしても平成28年度4月から義務教育学校が創設されることになりました。これには小学校、中学校の校舎が一体となっている施設一体型と、小学校と中学校が併設している併設型小中一貫の義務教育学校というものがあります。上越市の場合は地域に小学校、中学校が一つしかないというのがほとんどであります。22の中学校のうち11中学校区では地域に小、中学校が一つしかありません。初めのモデル指定として中郷中学校区、牧中学校区、八千浦中学校区、その次に大島中学校区で取り組んでおり、現在は潮陵中学校区、直江津東中学校区、春日中学校区も対象とし、小中一貫教育を進めております。そして今後、例えば牧小学校と牧中学校や谷浜小学校と潮陵中学校など生徒数が減っていけば、よくよくは学校、校舎が一つになるといった可能性もあるかと思っております。上越市では大きい学校、小さい学校を含めまして、小中一貫教育を進めていきたいと考えています。

また多機能学校というのは社会教育と学校教育が一体化したようなもので、学校の家庭科室や音楽室など、授業で使用していない時間に地域の人から使用してもらうといった仕組みであります。これは子どもが少なくても地域の大人と交流ができますし、地域との連携が進むと考えておりますので、これからも進めていければと思っております。

山村留学やオープンスクールについても、粟島浦村では、「しおかぜ留学」という取組を行っております。人数は22人くらいだったかと思っておりますが、粟島浦小中学校に入学や転校を希望する子どもたちを受入れ、島民や粟島馬と交流を中心とした教育体験をするといったものだったかと思っております。こういった取組も、一つのモデルとしたらいいのではと考えております。

(加藤委員長)

他に意見等ございませんか。

(保倉委員)

通学路の安全対策について話をさせてください。(仮称)有田小学校ができるのと小猿屋小学校の生徒が有田小学校へ通うこととなりますが、小猿屋小学校は周りに歩道が整備されていますが、有田小学校を見ますと歩道があまり整備されていない所があります。ぜひ子どもたちの安全を守るために歩道の整備をお願いします。冬は雪が積もり、歩道がないと車道の脇を通ることになり非常に危険であります。多少遠回りしてでも歩道がある安全な道を通学路にさせていただきたいと思います。

(加藤委員長)

統合に伴って付随して考えなければならない問題ですね。

他に意見等ございませんか。

(藤井委員)

資料にも書いてありますが、子ども達の適正な通学時間はおおむね30分以内となっていて、バス通学をする子どもも増えています。そうするとバスで直接自宅と学校を行き来しますので、地域の人から子どもたちの姿が見えなくなってしまう。そうすると地域にどんな子どもがいるか分からない、子どもたちはいつ学校から帰ってきて、何をしているのか分からないといった声も地域から聞こえてきます。そういった声もあることを念頭に置いていただきたいと思います。私自身も通学時間を30分以内に限定するのは少し疑問に思います。

(加藤委員長)

他に意見等ございませんか。

(安田委員)

卒園児の保護者から聞いた話ですが、高志小学校の校区は非常に広くて、これからの時期大変な道を歩いて通うこととなります。具体的に言いますと、上教大から山麓線を横切り線路を渡って高志小学校へ向かう通学路ですが、2～3キロの道のりをほとんど吹きさらしの中を頑張って歩いてきます。子どもたちが遅く育つことは間違いないですが、少し過酷かなとも正直思います。春日地区は子どもたちも多く大変かと思いますが、この学校区も含めて通学について考えていただきたいと思います。

(中戸副委員長)

実は上教大ができた時に、周辺の子どもたちをどこの学区に入れるのか話題になりま

した。春日小学校か高志小学校かの二つの選択肢がありましたが、大学の考えとして高志小学校になりました。もし今の地域に影響を及ぼしているのであれば、学区について地域との話し合いですとか大学との話し合いをすることで、いい方向に向くのではないかと思います。

(加藤委員長)

通学区域については地域の理解を得なければいけませんし、大変なこととは思いますが、そういう要望があることを承知の上で、今後検討していただければと思います。

他に意見等ございませんか。

(大滝委員)

現在、学校の下校時には地域の見守り隊の方が近くまで児童を引率していますが、その方たちに言わせると、地域の奉仕活動をしている団体に学校の先生から行事などの情報が入ってこないと聞きます。教育委員会を通してでもいいですので地域の方と先生とで打ち合わせをするように言っていただきたいと思います。

もう一つは、地域の子どもの日頃の実態について民生委員は地域の状況を把握していますので、PTAの役員だけではなく民生委員にも学校から連絡を取っていただきたいと思います。また、学校では地域の人、地域の人と、よく言われますが、地域の者からするとなかなか学校へは入りづらいです。教育委員会からも学校にお話していただきたいと思います。

(杉本委員)

いろいろな取組として東本町小学校の取組を紹介します。この学区では毎月町内に学校の1か月の行事予定や登下校の時間が回覧板で回ってきます。見守り隊の方も通学時間の把握がしやすいですし、予定から遅れる場合などは学校から連絡が来ます。このような取組を学校と話し合っただくと先ほどの話が解決するのではと思います。学校ごとに考え方がありますので一概には言えませんが、東本町小学校はそのように対応してくれていますので地域としては大変助かります。

(加藤委員長)

回覧板を回すとか、有線放送を流すなど地域や学校によっていろいろな取組があると思います。各学校に参考にしていただけるよう、ここで出た意見を伝えられるようにしていただけるとありがたいと思います。

他にないようでしたらこれで終わりにしたいと思います。

事務局にお返しいたします。

(市川教育総務課長)

ありがとうございました。本日いただきましたご意見を整理しまして、来年1月から2月の間に、第2回の委員会を計画させていただきたいと思います。

委員の皆様、本日はありがとうございました。

#### 9 問合せ先

教育委員会教育総務課企画係 TEL : 025-526-5111 (内線1030)

E-mail : kyouikusoumu@city.joetsu.lg.jp

#### 10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。